

この章では、フチトラン〔ショチトラン〕、アマシュトラン、イスワトラン、ミアワトラ、テクアウテペク〔テクアンテペク〕、ショロトラ（ン）と呼ばれる海岸部のインディオたちが、どのようにしてメシーカの商人を殺したか、そして、死に至らしめたことによって、〔メシーカ人たちが〕彼らに立ち向かい、彼らを打ち負かして殺し、彼らがメシーカ王家の臣下となったかについて扱う。

77章 メシコ・テヌチティトラン〔メシコ=テノチティトラン〕、アクルワカン〔アコルワカン〕、クアウティトラン、トゥルティトラン、テパネカ人、テナユカ〔テナユカン〕、クイトラチテペク、シュチミルコ〔ショチミルコ〕、クイトラワク、ミスキス〔ミシュキク〕、チャルコのオストメカ〔トル〕と呼ばれる商人たち、運搬人たちは、ならわしとして全員で一つの集団を形成した。それは先述の海岸部の町村へ行き、カカオ、羽根、金、貴石、虎のなめし皮、美しい羽根を持つ小鳥たちを持ち帰るためには、長い道のりを旅する必要があるからであった。〔商人たちが〕それらの町村に到着すると、人々はこう尋ねた。「おまえたちは何を望んでいるのだ？　どこから来たのだ？」メシーカの人たちは答えた。「あなたたちの町村で一夜を過ごしたいだけです。我々は生きる糧を探す哀れな商人で、遠い土地からやって來たのです。」〔しかし〕人々はこのことを快く思わず、その夜にメシーカの人たちを殺そうと、多くの人が集まった。メシーカの人たちはこれに気づき、別々に離れていたところを一か所に集まり夜遅くまで起きていたが、夜半過ぎには眠気に襲われ寝てしまった。（すると）人々はメシーカの人たちを皆殺しにした。その手から逃れようとした者もいたが、逃れられなかつた。ほとんどが死んでしまつたが、メシーカ人のうちの一人だけがその夜の内に逃れて、夜明けにはその町村から 10 レグア〔離れたところへ〕行き着いた。人々は残りの者たちを皆殺しにして、品物を奪い、大きな川へ投げ捨てるために彼らの死体を運び、さほど遠くないところで〔死体を〕谷底に投げ込んだ。コンドルや獸たちがその死肉を喰つた。以上のことをやり終えると、人々は逃げた者はいないとみなして、4つの町村で略奪品を分け合つた。逃げた者はメシコへたどり着くと王宮に赴いて、彼らがしたことを報告した。この報告の場にはシワコアトルが同席した。アウイツォトルは言った。「よくぞ参った。お前たちは、父祖たち、我が同胞たちを残して旅に出た。多くの仕事を成し、たくさんの苦痛と恐怖を味わい、太陽、水、山、川を耐え忍び、獸に出くわし、裏切り者や略奪者の手から逃れた。それが、あのように失われ忘れられてはならない。人々は〔お前たちの〕

心臓と眼と爪¹を称えるであろう。もう心を静めるがよい。奴らに対しては、厳しい報復がなされるだろう。一人のメシーカ人に対して、二千人の裏切り者が死ぬことになるだろう。お前たちは、安心するがよい。」〔そして王は〕自らの目の前で、〔その商人に〕食べ物や飲み物、花々や香炉や多くの衣服を与えた。

〔王は〕トラカテエカトル、アトリスカトル²、トラコチカルカトル、エスワカトル、アコルナワトル、トリランカルキ、テスカコアカトル、トクイルテカトル、ウィツナワトライロトラクを召集させた。彼らが王の館に全員揃うと、シワコアトルはクアウノチトリにこう言った。「アクルワカンの王であるネサワルピリと、テパネカ人の王であるトトキワストリに使者を送り、海岸部の者たちを徹底的に壊滅せしめるように要請せよ。」その後、この二人の王を呼び寄せるための使者が送られた。彼らはメシコの王たち³が呼んでいると聞き、テヌチティートランへとやって来た。4人の王全員が一ヵ所に集うと、アヴィツォトルはメシーカ人のプチテカ〔ポチテカ〕の一人がもたらした悪しき知らせについて語り始めた。どのように海岸部の悪しき裏切り者たちが、メシコやアクルワカンの人々、テパネカ人、チャルコ人、シュチミルコ人など、様々な町村の商人たちを殺したのか。どのように彼らから物を奪い、その死体を川や岩山へ投げ捨てたのか。そしてどのように、コンドルや獣がその死肉を喰ったのか。〔これらのことを行ったのは〕ショチトラン、アマシュトラン、イシュアトラン、ショロトラン⁴の者たちで、彼らは自分たちに敵対する者たちに武を向けた。さらに、ショコヌチコ、コアツアクアルコ、チナンテカトル、アヨテカトル⁵の町村の者たちがこれに加担した。王たちは彼らの兄弟や臣下の者たちが殺された話を聞いて大いに悲しみ、そして憤慨した。〔ネサワルピリとトトキワストリの二人の〕王は、アヴィツォトルを優しく励ましながら、もはやためらうことなく「すみやかにこの王家〔メシーカ王家〕や我々の各王家に属するあらゆる町村の人々を、いくら未熟な若者であっても一人残らず召集すべき」であると提案した。そして「私たちはあなたの承認のもとで、それぞれ自分たちの陣営を整えることにしましょう。偉大

¹ los coraçones, ojos, uñas 何らかの比喩であろう。

² 語彙集によるとアトリスカトルは要職の一つであるとともに、アヴィツォトル王の息子の名前でもある。原文ではイタリック体（ナワトル語）として示されていない。

³ シワコアトルを含めて「メシコの王たち los reyes de Mexico」としている。

⁴ 原注 165 4。

⁵ 原注 166 4。

なる王よ、あなたはこれから、すべての配下の町村に伝令を送られるとよいでしょう」と言った。そしてアウイツォトル王とシワコアトル・トラカエレルツインのもとを辞去して自らの領地に戻ると、ネサワルピリ王は彼が治める全ての町村の重臣、部将、戦士たちを召集し、彼らの兄弟、父、親戚、息子たちの死について長々と話をした。そして先述の 4 つの国の海岸部のインディオたちが残酷卑劣に彼らを殺したこと、自分たちの身を守るために他の 4 つの国の人たちと同盟を結んだことについて話をした。「アウイツォトル王は命じておられる。彼の王家の名のもとに、アコルワカン王家に従う全ての者たちは 8 日以内に戦場に集結するようにと。」重臣と部将たちは、これを聞き、事の次第を了解し、奮い立って、命じられたままに死地に向かうことを誓った。テパネカの王（のトキワストリ）も、これと同様のことを〔自分の国で〕行った。こうして彼らは、武具、盾、木剣、兵糧、トウモロコシパン（トラシュカルトトポチトリ⁶）、炒って挽いたトウモロコシにチアン〔チアシード〕を加えたピノレ〔ピノル、トウモロコシ粉〕、挽いた乾燥チレ〔トウガラシ〕、挽いたインゲン豆、挽いた乾燥カカオ（カカワピノレ）を準備するように命令を出した。毎日メシーカ人たちは自分たちの地区を歩きまわり、一日のうち 2 時間を戦いの訓練に費やした。若者たちと、戦地へ赴いた経験を持つ者たちを訓練し、充分な数の武具と兵糧を準備した。同様に、クユアカン、スチミルコ〔ショチミルコ〕、ミスキク、クイトラワク、クルワカンならびにナチテウクトリ〔ナパンテクトラ〕の全町村へ伝令を遣わした。彼らはイスタパラパン〔イツタパラパン〕、メシカシンゴ〔メシカツィンゴ〕、ウィツィロポチコ、チャルコ、トラルウィクの人々たちで、侯爵領に含まれる暑い土地から、マトラツィンコや山岳部の先にあるテナンシンゴ〔テナントツィンコ〕、マリナルコ、オクイラン、シロテペク、チアバ〔チアパン〕、ショコティトラン、マサワカン・シキピルコ、クアワカンから、さらにはトゥランシンゴ、オトミ一人〔の町村〕、メステイトランの町村に至るまで、速やかに知らせがもたらされた。長い道程となるために潤沢な兵糧が必要であった。それからメシーカ人は進軍を開始した。いつものように彼らは先頭を進み、軍を先導し、土地を偵察しながら道を切り開いていった。〔彼らは総出で出立したため〕メシコの町には人がいなくなり、ただ女たちの姿が見られるだけであった。全軍が出発すると、それから 4 日間、既婚の女たちと年頃の少女たち、女の神官、香炉係たちは断食を行った。神官と香炉係たちは 4 日ごとにウィツィロポチトリの前

⁶ トルティーヤを焼いたもの（トトボ）。現代のトトボトリ（トルティーヤ・チップス）。

で供犠を行い⁷、舌や耳、腕や太腿から血を流した。女たちは皆、その日から、髪も手も顔も洗わず、沐浴もしなかった。そのため顔や手、皮膚は凄く汚れて、垢まみれであった。そしてカルポルコ〔地区にある寺院〕と呼ばれる、礼拝堂のようないくつかの小部屋の中に、以下のものを飾った。すなわち、オマトル〔長袖のマント〕と呼ばれる彼女たちの夫や兄弟の豪華なマント。ケツアルコアトルの偶像や、ウイシュトシワトル〔塩の女神〕やアトラントナン〔「我らの母なる水の女神」〕といった女神、イシュトリルトヤワ〔病と治癒の神イシュトリルトンの異名〕と呼ばれる神、チャルチウクエク〔チャルチウトリクエ〕の偶像。戦争で生贊となった者たちの骨（「マリ・ヨミオ」）⁸。そして戦いの神々（マルテオ⁹）〔の像〕。人々はまた、明けの明星が現れる前に火を熾し、自分たちの香炉へと移し、コバル〔御香〕を中に入れて、神々や女神、骨、その夫たちの衣服を燻した。そして戦いの神々、すなわち土着の悪魔たちに祈りを捧げ、夫たちに勝利を与えてくれるように祈った。それを終えると、神々すなわち悪魔たちに朝食を供えた。パパロトラシュカリ¹⁰と呼ばれる大きな白いトルティーヤを作り、マゲ〔マゲイ〕につく芋虫を塩漬けにしたものコマル〔円形の陶器〕で焼いた。これはショネクイリンやメコクイリと呼ばれる虫である。また、少量のトウモロコシを煎って挽いたイスキオトルと呼ばれるものを、青色に塗った新しいシカラ〔ヒカラ、ヒョウタンの容器〕の中で〔水と〕よくかき混ぜて、それを神々に飲み物として捧げた。それが終わると、神々の前で、涙を流し、嘆きながら、言った。「神々よ、我らの水と風と大地の神々よ、汝らへのささやかな捧げもの、供えものとして、小さな葉を、打ち負かされし者たちを、汝方に捧げます、汝の哀れな従僕たち、鷺と虎の戦士たち〔に勝利を与えてください〕。彼らは、私〔たち〕のために、ナワ〔腰巻〕やグエイピル〔ウイピル、肩衣〕をもたらそうとしているのではありません。私たちの子供のために食べ物をもたらそうとしているのでもありませんし、彼らのために商品を抱えて売りに行こうとしているのでもありません。彼らは、我が善き神よ、汝のために〔戦いに赴くのです〕。

⁷ 原注 167 人差し指を伸ばした手。

⁸ 原注 168 “malli iomio”. 「供犠される者の骨（マリ）」。（編注）

⁹ 原文ではイタリック体（ナワトル語）として示されていない。語彙集によるとカルポルコ内に吊るされた、戦争の捕虜を擬人化した骨。

¹⁰ 語彙集によると蝶の形をした供物用のトルティーヤ。現代のパン・デ・ムエルト（死者のパン）。

汝は、風、夜、気まぐれなる者、欲する者、我らは汝の従僕しもべ（ティトラカワン¹¹）なり。汝の従僕たち、〔残された〕我らの切なさ、哀しみとともにに行く夫〔たち〕に、憐れみを与えてください。」このように既婚の女たちは皆、4日ごとにこれを行ったのだった。本題〔メシーカ人の行軍〕に話を戻そう。メシーカ軍はグアハカ〔オアハカ〕へ到着すると、全町村から有力者たちを呼びだして言った。「我々の命令を聞いたなら、すみやかに武具と充分な兵糧を用意して、我々とともに海岸部に向かうのだ。また部将たちは、ノノワルコ人¹²が全員、3日以内に陣営に馳せ参じるように、指示を出せ。」同様にオトラトラン人¹³とイスワトラン人¹⁴に対して、この戦いのために準備すること、また奴隸を捕らえるのではなく、年少者から年長者に至るまで容赦なく皆殺しにするようにということが命じ伝えられた。グアハカ〔オアハカ〕の国境を出るときに、メシーカ人たちはアウィツォトル王の前に呼び集められた。そして、捕虜にされた者は誰一人として遙か遠いメシコに送ることはせず、すべて〔その場で〕殺すように、と命じられた。そしてミアワトラン人、オトミ一人、イスワトラン人のいるところへ到着すると、メシーカの軍勢は雄叫びをあげはじめた。それは山や丘が崩れんばかりの激しさで、敵方に無数の死者が出るほどであった。それから二時間ほど経ち、〔ミアワトラン人たちは〕大声で言った。「メシーカ人よ、もうやめてくれ。あなたたちの怒りをおさえて、武器を置いてくれ。私たちの町村は、貢物を差し出す。この海岸部にあるもの、すなわちチャルチウイトル〔緑石〕、様々な種類の緑石、貴重な羽根、別の種類の小粒の貴石、巻貝、貴重なテコマテ〔テコマトル、ヒヨウタンの容器〕、とても貴重な白い羽根を差し出す。」このようにして全員に戦いを止めさせ、戦いは終わったのだった。捕虜となった者は全員殺された。捕虜をとらえた若者たちは勝利の証として、後頭部に一房の髪を残して丸刈りにした。これは髪を編み込んで豪華な羽根飾りを付けるためであった。そして二人か三人〔の捕虜〕をつかまえた者は、クアチク〔メシコの高位の戦士〕のように頭を剃り、髪をとさか状にして、編み込んだ髪の後ろに豪華な羽根を付けた。それか

¹¹ テスカトリポカ神とウイツィロポチトリ神の俗称。原文ではイタリック体（ナワトル語）として示されていない。

¹² ベラカルスの海岸部の町、ノノワルコの住民。

¹³ ゲレロ州北部の町、サン・ミゲル・トトラパンの住民。

¹⁴ ソコノチコへ至るルート上にあるオアハカの海岸部の町で、現在のサン・フランシスコ・イスワトランの住民。

らさらにメシーカの軍勢は、ショロトラン、マシュトラン¹⁵、テグアンテペク〔テクアンテペク〕へと進軍した。アワトラ〔ミアワトラ〕とイスワトランの者たちは、アウイツオトル王の命令として、先頭を進んで、それら3町村への道中の案内役をするように命じられた。アヨテコ〔アヨトラン¹⁶〕へ着くと、イスワトラン人はアウイツオトル王にそのことを伝えた。その国境に到着するとアウイツオトルは、あくる日の夜明け前に敵に激しい攻撃をしけけ、あたりが明るくなるまでに敵を完全に打ち負かすように命じた。そこで部将たちは、ならわしに従って自分の戦士たちを鼓舞した。部将たちは、自分たちはすでに「トラチノル・アテンパン〔燃えるもの・水のほとり〕」¹⁷の中にいるのだということを語った。そして、この世の生ははかないものであることと、花咲く戦場（シュチヨオヨク¹⁸）で死ぬことの偉大さと栄誉について語った。これらの言葉を聞き終えると、戦士たちはむせび泣き、うなり声をあげ、立ち上がって抱き合い、もう二度と会うことがないかのごとくお互に別れを告げ、死ぬか勝つか〔のどちらか〕だと言った。そして、武具を身に着け始め、足や顔を黒く塗って、部将や戦士たちがお互いに〔仲間だと〕見分けることができるようとした。

【訳：岡崎雅子 2025/03/10】

¹⁵ テワンテペク地峡の町（地点不明）。

¹⁶ マヤ地方の町で、現在のメキシコとグアテマラ国境付近に位置する。

¹⁷ 原注 169 “*tlachinol Atempan*” 文字通りには、「燃える海岸部」。戦争を示す暗喩。（編注）

¹⁸ ショチヤオヨトル（花戦争・花の戦い）